

第21回 エコヘルス研究会 the RIHN ecohealth project seminar

日時 2009年3月12日（木） 17:00-18:30

場所 総合地球環境学研究所 研究室11

報告 浅井英利（京都大学大学院農学研究科博士課程）

「作物生産と炭素循環からみたラオス焼畑農業の現状とその将来」

東南アジア大陸部に位置するラオスの北部山岳地域では、陸稲を中心とした焼畑が主要な農業形態であり、これまで長い休閑期間のもとで持続的に営まれてきた。近代農業とは対照的に、伝統的焼畑は作物生産のみならず、休閑地から有用資源の活用も含む自給的な複合生業であるといえる。しかし近年、市場経済の浸透、増加する人口圧・森林保護政策の導入のもとで焼畑面積の拡大・休閑期間の短縮が認められており、それにともない森林・土壌から大気中への二酸化炭素の放出や作物生産性の低下などの問題が懸念されている。

本発表ではラオス北部地域での焼畑農業の現状を紹介しながら、まず土壌肥沃度・炭素循環の定量化より、現在の短期休閑型焼畑農業では土壌の劣化・作物生産性の低下が不可避であることを示す。次に、重要な森林資源のひとつである建築資材資源に着目し、その需要・供給量バランスを村規模で把握することにより、焼畑農業の外延的生産拡大が不可能であることを明らかにする。最後に、稲生産性改善のための様々な農業技術を紹介し、将来の焼畑農業の持続的なあり方について考えたい。

言語 日本語

主催 「熱帯アジアの環境変化と感染症」プロジェクト
(通称「地球研エコヘルスプロジェクト」 代表門司和彦)

問合せ 市川智生 (t-ichikawa@chikyu.ac.jp 内線2418)